

# 業務実績報告書

提出日 2020年1月7日

1. 職名・氏名 准教授 舟木 紳介

2. 学位 学位 修士、専門分野 社会福祉学、授与機関 シドニー大学、授与年月 H10.12

## 3. 教育活動

<p>(1)講義・演習・実験・実習</p> <p>① 担当科目名(単位数) 主たる配当年次等 精神保健ソーシャルワーク実習 (6単位 毎年開講) 3年生 2017年度～2019年度</p> <p>② 内容・ねらい 精神保健福祉分野で働くソーシャルワーカーが必要とする価値・倫理、知識、技術および関連知識を習得し、精神保健福祉サービスの利用者と援助の実際を理解し、精神保健福祉ソーシャルワーカーとしての実践力を養う。</p> <p>③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫 ・ 実習事前学習(計画書作成)ではワークショップ形式で学生相互に学びあう環境を作った。実習計画書作成において個別面接を行い、学生一人一人の学びの状況に合わせて指導を行った。実習期間中に帰校日での実習指導では、グループワークによる学生相互の意見交換を促進させるために、各時間にピアサポートグループによる学生の自主的な話し合いの時間を設定した。</p>
<p>① 担当科目名(単位数) 主たる配当年次等 ソーシャルワーク論Ⅰ(2単位 毎年開講)1年後期(2017年度～2019年度)</p> <p>② 内容・ねらい 現代社会における相談援助の専門職としての社会福祉士・精神保健福祉士の役割と意義を概観し、ソーシャルワークの概念と範囲について検討する。ソーシャルワークの実践基盤である人権と社会正義についてその概念と発展段階を講義する。グローバル化する社会における多様なソーシャルワークの利用者の権利擁護および専門職の倫理について理解する。</p> <p>③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫 ・ 15コマを担当した。学生と教員、および学生同士の学習交流を促進するためにフレックスSNS内に「ソーシャルワーク論受講者コミュニティ」を形成し、課題提出や意見交換に活用した。 ・ ワorkshop形式での授業も採用し、学生同士の意見交流の場をつくった。 ・ ソーシャルワーク論Ⅰの一環として、国連およびNGOが主催する世界の貧困問題解決をめざしたキャンペーンの紹介やデジタルメディアを活用した教育問題解決実践をセネガルで実践した元青年海外協力隊を招聘し、グローバルな社会福祉実践におけるメディアの意義を考える機会を提供できた。</p>
<p>① 担当科目名(単位数) 主たる配当年次等 ソーシャルワーク論Ⅱ(2単位 毎年開講)2年前期(2017年度～2019年度)</p> <p>② 内容・ねらい 日本および国際社会におけるソーシャルワークの概念の発展の歴史について、相談援助の概念および範囲と関連付けながら、講義する。グローバル化する社会における多様なソーシャルワーク実践の具体的な課題や事例を取り上げながら、相談援助の専門職としてのソーシャルワーカーのアイデンティティや倫理的ディレンマについて検討する。相談援助における包括的な援助実践に向けた多職種連携の重要性について講義する。</p> <p>③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫 ・ 15コマを担当した。学生と教員、および学生同士の学習交流を促進するためにフレックスSNS内に「ソーシャルワーク論受講者コミュニティ」を形成し、課題提出や意見交換に活用した。 ・ ワorkshop形式での授業も採用し、学生同士の意見交流の場をつくった。</p>

① 担当科目名 (単位数) 主たる配当年次等 ソーシャルワーク演習 III (2 単位 毎年開講) 3 年後期 (2017 年度~2019 年度)
② 内容・ねらい 具体的な事例検討を導入し、個人に加えて、グループワーク、コミュニティワーク等の SW の援助技術を学ぶ機会をもつ。さらに、自己覚知、価値観の多様性、価値と倫理などのテーマを取り入れ、発展的に展開している。私はコミュニティワーク (地域におけるソーシャルワーク) をテーマに主担当として活動した。
③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫 コミュニティワーク分野で実際に活用されているワークショップ形式による授業を行い、学生自身が参加者となって地域における福祉課題を議論する場を作っている。グループで議論した内容を模造紙や写真を使って、プレゼンテーションする機会も作っている。
(2)非常勤講師担当科目
①担当科目名 (単位数) 開講学校
(3)その他の教育活動

#### 4. 研究業績

(1)研究業績の公表
① 論文 (共著)
1. アクティブシニアの ICT 利用とボランティア活動: 福井県で実施したアンケート調査のデータ分析から (3), 福井県立大学論集, (49), 1-14. 著者: 舟木紳介、塚本利幸、橋本直子、永井裕子、2017 年
2. アクティブシニアのボランティア活動参加と社会関係資本: 福井県で実施したアンケート調査のデータ分析から(4), 福井県立大学論集, (49), 15-44. 著者: 塚本利幸、舟木紳介、橋本直子、永井裕子、2017 年
3. アクティブシニアのボランティア活動参加と社会問題への関心: 福井県で実施したアンケート調査のデータ分析から(5), 福井県立大学論集, (50), 27-58. 著者: 塚本利幸、舟木紳介、橋本直子、永井裕子、2018 年
4. オーストラリアの日系コミュニティとその社会的帰属意識: シドニーの日本語補習校等へのアンケート調査を事例として、オーストラリア研究, (32), 15-31. 著者: 舟木紳介、濱野健、2019 年
5. オーストラリアのコミュニティ文化開発におけるデジタルメディアの活用、福井県立大学論集, (52), 89-102. 著者: 舟木紳介、2019 年
6. アクティブシニアのボランティア活動参加と構造的制約条件: 福井県で実施したアンケート調査のデータ分析から(6) 福井県立大学論集, (52), 59-88. 著者: 塚本利幸、舟木紳介、橋本直子、永井裕子、2019 年
② 著書 (翻訳)
1. Bruce A. Thyer 著、Preparing Research Articles: Pocket Guides to Social Work Research Methods」(第 1 章、第 2 章担当) 共訳: 塩原良和・木村真希子・舟木紳介、新曜社、2020 年 出版予定 (報告書)
③ 学会報告等
1. オーストラリアにおける日系コミュニティの 社会的・経済的・政治的つながりに関する研究(1) -シドニーにおけるアンケート調査・インタビュー調査の概要、オーストラリア学会 2017 年度全国研究大会、発表者: <u>舟木紳介</u> 、2017 年 6 月 18 日
2. A comprehensive study on factors promoting participation in volunteer activities among active senior citizens in Japan Joint Regional Social Work Conference, 2017, China、発

<p>表者：塚本利幸、舟木紳介、橋本直子、永井裕子、2017年9月28日</p> <p>3. Being Australian? Exploring the dimensions of social and economic settlement of cross-border marriage for Japanese migrant women in Australia, the 14th Asia-Pacific Sociological Association Conference, Hakone, 発表者：<u>Hamano, Takeshi</u>, Shinsuke Funaki and Ruth Phillips 2018年10月6日</p> <p>4. Social Cohesion of Ethnic Communities in the Light of Multicultural Social Work: Towards a Development of Its Theory and Practice for the Japanese Ethnic Community in Australia</p> <p>オーストラリア学会 30周年記念国際大会／2019 ASAJ International Conference, Tokyo, 発表者：<u>Shinsuke Funaki</u>、Hamano, Takeshi, 2019年6月15日</p>
④ その他の公表実績
(2) 学会活動等
学会でのコメンテーター、司会活動
学会での役職など
学会・分科会の開催運営
(3) 研究会活動等
① その他の研究活動参加 (招聘講演・セミナー)
<p>1. オーストラリアにおける日系コミュニティの社会的・経済的・政治的つながりに関する研究-日系コミュニティのアイデンティティの課題、福祉専門職に対する日系コミュニティの社会的・経済的・政治的つながりに関する研究報告会(シドニー)、2017年8月9日</p> <p>2. A study on the current conditions of social, economic and political integration of the Japanese community as Australians, A research seminar on Japanese community as Australians (Sydney), 2017年8月10日</p> <p>3. 13. オーストラリアにおける日系コミュニティの社会的・経済的・政治的つながりに関する研究-シドニーにおけるアンケート調査、オーストラリアにおける日系コミュニティの社会的・経済的・政治的つながりに関する研究報告会(シドニー大学)、2017年8月15日</p>
② その活動による成果
1. 福井県要約筆記者養成講座移行研修講師「障害者福祉施策の現状」2017年9月
(4) 外部資金・競争的資金獲得実績
<p>1. 平成27年～平成29年日本学術振興会科学研究費国際共同研究加速化基金国際共同研究強化「デジタルメディアを活用した多文化ソーシャルワークの実践モデルの構築」代表研究者：舟木紳介 共同研究者：シドニー大学ソーシャルワーク学部 Ruth Phillips 准教授(オーストラリア) 助成金額(総計)：9,000,000円</p> <p>2. 平成29年～平成31年日本学術振興会科学研究費基盤研究C「移民支援におけるコミュニティ文化開発と多文化ソーシャルワーク」代表研究者：舟木紳介 平成29年度助成金額 1,430,000円 平成30年度助成金額 1,430,000円 平成31年度助成金額 1,300,000円</p> <p>3. 平成29年～平成31年日本学術振興会科学研究費基盤研究C「ボランティア活動参加の促進要因に関する総合的研究-社会関係資本との関係を中心に-」代表研究者：塚本利幸</p>

分担研究者：舟木紳介  平成 29 年度助成金額 650,000 円 平成 30 年度助成金額 3,250,000 円 平成 31 年度助成金額 650,000 円
(5)特許出願

#### 4. 地域・社会貢献

(1)学外団体
① 国・地方公共団体等の委員会・審議会 2010年8月 福井市多文化共生推進協議会懇話会座長（現在に至る） 2014年7月 福井市多文化共生推進プラン改訂検討委員会委員（現在に至る）
② 国・地方公共団体等の調査受託等
③（公益性の強い）NPO・NGO 法人への参加
④（兼業規程で業務と見なされる範囲内での）企業等での活動
⑤ 大学間あるいは大学と他の公共性の強い団体との共催事業等
⑥ その他
(2)大学が主体となっている地域貢献活動等
① 公開講座・オープンカレッジの開講 2017年9月 対人援助者のためのデジタルストーリーテリング講座、オープンカレッジ 2017年10月 一歩先の社会福祉学「オーストラリアの多文化共生政策について」オープンカレッジ
② 社会人・高校生向けの講座 2017年7月武生東高校2年生対象模擬講義「社会福祉学」
③ その他
(3)その他（個人の資格で参加している社会活動等）

#### 6. 大学の管理・運営

(1)役職（副学長、部局長、学科長）
(2)委員会・チーム活動
大学グッズ・SNS ワーキング委員（現在に至る） 論集編集委員会委員（現在に至る）
(3)学内行事への参加
(4)その他、自発的活動など